



平成28年度 伊豆市議会 第一委員会 行政視察 報告書

視察先	1日目	岩手県	洋野町役場
	2日目	岩手県	久慈市役所
		岩手県	一戸町役場
	3日目	岩手県	盛岡市役所

平成28年7月26日～28日

山田 元康

7月26日朝、修善寺駅7:05分発の電車に委員7名杉山事務局員計8名で出発する。三島駅に7:42分着8:01分発のこだま808号で東京駅8:56分着、9:08分の東北新幹線はやぶさ9号に乗る。駅ホームでの乗り換え時間が少ない為、皆協力しあった。八戸駅には12:01分着、そこから八戸線(ディーゼル車)に乗る。目的の種市駅には約1時間、13:18分に着く。駅前の食堂でおそい昼食を採り、洋野町役場まで徒歩で行く。14:30分より行政視察。

洋野長視察内容 東日本大震災で犠牲者ゼロだった洋野町の防災対策について

震災当日、洋野町は震度4を観測。津波遡上高は中野地区沿岸15mを記録。八木地区11.6m、種市地区10.0m、角浜地区7.9m。地震発生より津波到達までの時間40分。被災住家(全壊10棟、大規模半壊11棟、半壊5棟、一部損壊35棟、床下浸水6棟)、非住家155棟(全壊73棟、大規模半壊10棟、半壊33棟、その他3棟)

死者、負傷者、行方不明者が無かった大きな理由として、明治、昭和三陸大津波において死者等含む、甚大な被害を被った経験から、当町の沿岸線26kmのうち、TP12mの防潮堤は6海岸で2.951.1mが整備されており、地域で津波慰霊祭を毎年行うなど震災の教訓を受け継いでいる事、又八木地区においては、震災前に自主防災組織が組織され、地区が震災に備えていたこと。

子供、お年寄り、障害者などの被害対策は。子供については、各小学校の個別のルールに従い、津波警報等発表中は学校に待機させる(親に引き渡さない及びその後の引き渡しルールを厳格化している) お年寄りは自主防災組織又は社会福祉協議会等で実施しているボランティア等により、地域ごとにサポート体制を順次整備している。障害者については、福祉避難所として、老健施設等と災害協定を締結し、現在、災害時要援護者支援(個別)計画の策定に取り組み、全体計画は今年度中に、個別計画は来年度中に策定する予定である。

避難対策は、季節、時間帯、災害の規模、障害の程度、お年寄りの健康状況

等様々場面が、想定され難し所はであるが、助ける側と助けられる側のルールは必要で在り、随時、見直しを実施していくことが大切である。

地域消防団の役割は。洋野町消防団は 14 分団 41 部 563 人（うち町職員 83 人）で構成されている。消防団の水門、陸閘等の閉鎖を 1 部 1 水門とし、退避ルールを決め、避難広報、避難誘導後、津波到達予定時間 15 分前に退避し、主要道路にて道路規制（封鎖）、1 次避難場所、避難所での避難者数把握、報告等である。洋野町消防団には定年制が無く、現役で 70 歳代の消防団員もいるそうです。

翌 27 日 9:00 より久慈市役所にて議会報告会・かだつて会議についての行政視察を行った。市役所に入ります目についたのは職員がかつての朝ドラ（あまちゃん）に出てきた緋風の上着を着ていた事、説明をしてくれた議会事務局の長内紳悟（主査）も緋の上着を着ていた。彼は早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員の肩書を持ち（一年間休職し、二年の課程を一年で取得された）説明・質疑応答にも一人で資料も見ずに話しのできる優れものであった。

我々伊豆市議会も初めて議会報告会を経験し、会場の設定や住民への声掛け出席者からの意見・提言・要望等を分類し、数年議会報告会を経験していけば要領が分かって、出来るようになると思います。

二時間の研修も終わり、ジャンボタクシーに乗り一路、一戸町に向かう。

一戸町役場内でお弁当を用意して下さって有りそこで昼食を済ませ 13:30 分よりデマンド交通「いくべ号」の取り組みの視察である。

一戸町は岩手県内陸北部に位置する総面積 300.03 k m²のうち、山林・原野が 62% を占める高原の町で、人口減少に伴い高齢化比率が現在 37.3%と急速に高齢化が進んでいる。デマンド型交通については、平成 13 年頃から勉強を始め平成 15 年度に老人クラブの会員 1,400 名にアンケートを実施した結果、約 76%が「自ら移動する交通手段を持たない」との回答があり、検討委員会を立ち上げ平成 20 年 10 月、町・町内タクシー事業者 3 社・バス事業者 1 社の計 5 者の共同出資により「有限責任事業組合一戸町デマンド交通」(LLP)を設立。

システムは、10 人乗りジャンボタクシー 4 台で運行。利用方法は、予め利用者が登録をしチケットを購入(100 円券 10 枚組)運賃は同一エリア内一回の乗車に付 300 円、エリア越えは 1 エリア越えるごと 200 円加算され、300 円、500 円、700 円の 3 種類で、チケットで支払う。運行は月曜日～金曜日 午前 7 時～午後 4 時まで、予約は 1 時間前まで、運行開始より 7 年目になり、利用状況は 1 日平均 80～100 名、90 人以上あれば採算が取れるとの話。いくべ号予約センターを視察。大型パソコン 2 台、時刻表ホワイトボードには今日の予約、行

先が記されていた。我々がここで説明を受けている間に予約の電話が入れば良かったが予約電話は入らなかった。以前伊豆市でも試験的に（柿木）行った事があるようだが、伊豆市全体で考えると難しいのかな？然しながら、いずれこういう交通を考えていかなければならないのは間違いない将来である。

視察を終え、待っていたジャンボタクシーに乗り、次の視察先、盛岡へ約 1 時間 30 分。盛岡市に入ると今までの町と全く違う風景である。

翌朝ホテル前までマイクロバスで、議会事務局女性職員が迎えに来てくれた。9:00 より盛岡市役所で、盛岡ブランド推進事業についての経緯を学ぶ。

盛岡市は近年（平成 18 年）玉山村と合併し人口 30 万の中核市都市となり、平成 20 年市制施行 120 周年を迎えるも、今年度国勢調査では 296,558 人と人口減少、少子高齢化の波は地方都市の悩みの種である。地域間競争が増す中、「訪れてみたい」、「暮らしてみたい」、「住み続けたい」など、市内外の人々から「選ばれるまち」になるため「盛岡の有形・無形の地域資産」が持つ魅力（盛岡らしさ）を掘り出し、市外に発信することを目指し、平成 17 年度から取り組んだ。

10 年の前計画の成果と課題を踏まえ、平成 27 年 3 月に第二次盛岡ブランド推進計画策定に取り組む。例えば、「中津川の鮭の遡上・盛岡さんさ踊り・南部鉄器・盛岡冷麺・リンゴ・わんこそば」などは遠く離れた我々もよく知るブランドである。研修会も時間を残し終了したので、議場を見学し、岩手銀行赤レンガ館を見学その後、もりおか歴史文化館を視察、管内の案内を女性館長に盛岡弁で説明をして頂いた。

以上で今回の視察研修はすべて終了したが、三日間で四か所の視察と時間に余裕が無かったので、観光する時間もなかったが、余裕があれば又訪れてみたい。そして本年は「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」が 1 月に冬季大会が行われ、秋には本大会が行われていきます。

帰りの昼食をわんこそば屋で済ませ、盛岡駅 13:50 分発くはやぶさ 20 号に乗車、全員無事に 18:07 分修善寺駅に到着・解散した。同行してくれた杉山事務局員には三日間大変お疲れ様でした。有難うございました。